

岐阜市だいこん部会協議会（岐阜県岐阜市）

構成員：則武鷺山園芸振興会、各地区だいこん部会、岐阜農林事務所農業普及課

背景・課題

春大根を年間約850トン、秋冬大根を年間約140トン出荷する本地域は、春大根の栽培にポリマルチを使用するため、使用後のポリマルチを廃プラスチックとして排出している。廃プラスチックの回収作業は手作業であり、高齢化が進む生産者にとって非常な重労働である。また、春大根、秋冬大根とも、土壌病害対策として土壌くん蒸剤を使用しているが、くん蒸材の揮発やくん蒸材散布後のマルチの伸張などの作業が危険かつ重労働となっている。

さらに、地域の混住化が進む中で、家畜由来堆肥の施用が困難になりつつあり、効率的に有機物を供給し地力を維持する体系が求められている。



位置図

みどり戦略実現に向けて

- ・ ポリマルチを生分解性マルチに転換した栽培体系を検討し、石油由来資材の使用量削減とマルチ回収作業の省力化を図る。
- ・ 土壌くん蒸剤を土壌混和剤に転換した土壌病害虫防除体系を検討し、土壌くん蒸剤の使用量削減と作業工程の省力化を図る。
- ・ うね間に小麦リビングマルチを作付けする効率的な有機物の供給体系について地力維持効果と除草剤散布回数削減を検証し、導入促進を図る。



環境負荷軽減の取組

- 温室効果ガスの削減（廃ポリマルチ回収量（R3:31 t）の削減）
- 化学農薬の使用量低減（土壌くん蒸剤使用回数の削減（1回→0回））
- 除草剤使用量の低減（除草剤散布回数の削減（1回→0回））

検討するグリーンな栽培体系

- ① 温室効果ガス削減及び省力化：生分解性マルチの導入（廃ポリマルチ回収作業時間の削減）
- ② 化学農薬の使用量低減及び省力化：土壌混和剤体系の導入（土壌くん蒸作業時間の削減）
- ③ 除草剤使用量低減及び省力化：小麦リビングマルチの導入（除草剤散布作業時間の削減）

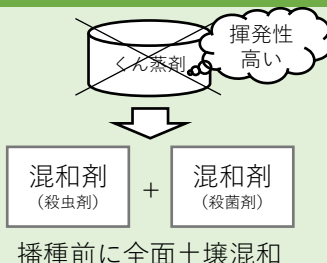
取組時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①												
②												
③												

①生分解性マルチの導入



すき込みし分解

②土壌混和剤体系の導入



③小麦リビングマルチの導入



小麦

問い合わせ先

岐阜市だいこん部会協議会事務局（則武鷺山園芸振興会）
電話・FAX 058-231-0406 メール73050@jagifu.gjadc.jp